

Title	藩別に見た初期の慶應義塾入門生(2)
Sub Title	
Author	河北, 展生(Kawakita, Nobuo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1954
Jtitle	史学 Vol.27, No.2/3 (1954. 5) ,p.387(485)- 387(485)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白録 慶應義塾史研究特輯
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19540500-0387

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

註32 肥後文教史四三三頁

註33 續福澤全集第六卷五〇五頁

註34 汐留出張所設立を知らせる爲に出来た慶應義塾新議には「此度出張の講堂は講書教授の場所のみにて、眠食の部屋なし。」と述べてゐることから、一應内塾生ではないやうにも考へられるが、最初中津藩との交渉は寄宿生を入れない相談であつたが、次第に寄宿生が入るやうになつたのではないかと思はれる點もある。しかし例へば十二月汐留の中津藩邸の火事の際の出張所の消火出動の如き、内宿生とも考へられるが、また近所に宿泊してゐた外塾生とも考へられる。この點は資料が曖昧であるので、一應疑問としておく。

註35 續福澤全集第六卷五九二頁

註36 續福澤全集第六卷六〇四頁

上述の諸藩中和歌山、熊本、高知、仙臺の諸藩は大體毎年入門生を出してゐるのである。和歌山藩は紀州塾と呼ばれる塾舎を建て、居り、熊本藩は洋兵明鑑を買入れて居り、仙臺藩は江戸留守居役大童信太夫と福澤の交友關係がある點から見て、これら特別關係深い諸藩が、特に慶應義塾に入門生を送る事に熱心であつたとみる事が出来る様である。

薩摩藩が慶應三年、明治元年の變革期に入門生をみてゐないことは、同藩と關係深い人吉藩と共に、維新の經營に多忙であ

つた爲ではなからうか。廣島、福井の二藩が明治一二年に入門生が中絶して居るが、其の理由は不明である。

これに對し、明治に入つて始めて入門生をみたのは、久居、吉田、大村、掛川、岩國、福山、大泉、鳥取、名古屋、鳥羽の諸藩で、名古屋鳥取の二藩以外は、比較的小藩が多いのも興味ある傾向の一つである。特に久居藩のごときは、明治三年に一舉に一九名の入門生をみて居る。これは極めて特異な現象であるが、その理由は不明である。

(四〇〇頁に續く)